

# 左隻(9月15日)

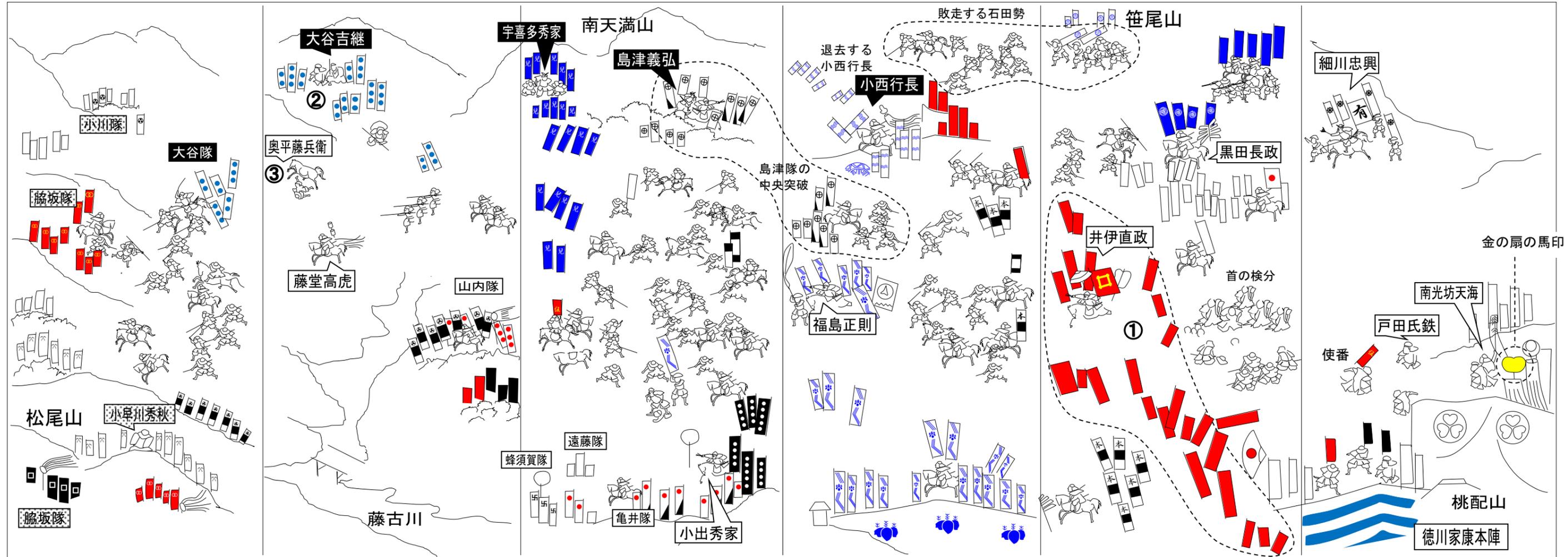
早朝、東西両軍 15 万余が関ヶ原に集結した。午前 8 時、井伊直政、松平忠吉(忍城主)が、宇喜多秀家隊に攻撃をしかけ、これに福島正則が続き、各所で戦闘が開始された。

戦況は一進一退を続けたが、事前に内応や寝返りの約束をしていたものがあり、西軍 7 万余のうち、戦っていたのは石田三成、大谷吉継、宇喜多秀家ら 3 万余であった。

正午ころ松尾山で様子うかがっていた小早川秀秋が寝返って大谷隊を攻撃したのを境に東軍も総攻撃を仕掛け、西軍は総崩れとなった。大谷は自刃し、石田や宇喜多らは落ち延びていった。

- ①井伊の「赤備え」。具足から旗指物まですべてを赤で統一していた。
- ②槍を手にしてうつむく大谷吉継。らい病が悪化し盲目となってしまったが、最後まで三成を助けて戦い自刃。享年 42。
- ③奥平藤兵衛。小早川内通の検使として家康から派遣された。小早川の先陣を駆け、大谷隊に突入して討死した。文政 6 年に伊勢桑名から忍城に転封した(奥平)松平氏の一族。

□ = 東軍(徳川家康軍)    ■ = 西軍(石田三成軍)    ▨ = 内応軍



## 六扇

場面中央では東軍に寝返った小早川隊と戦う大谷隊。その周りには、小早川秀秋、脇坂安治、小川祐忠ら東軍に内応していた部隊が描かれている。場面下方の松尾山から戦況を見下ろす赤い鎧を着た後姿の武将が小早川秀秋。中央左端赤い旗の隊が脇坂安治、上方の巴紋の旗が小川祐忠の隊。小早川隊らの裏切りにより西軍は総崩れとなった。

## 五扇

川の右側、三ッ柏の旗が山内一豊隊。中央左端で大谷隊に向かうのが藤堂高虎。その上で大谷隊に討たれて落馬しているのが、小早川秀秋裏切りの検分役として家康から派遣された奥平藤兵衛。最上部には石田三成の盟友大谷吉継の陣が描かれている。

## 四扇

左端の青地に「兒」の旗を差した部隊は宇喜多秀家隊。采配を持っているのが秀家。その右、丸に十の字の旗を差しているのが合戦に参加せず戦場を離脱する島津隊。場面中央では宇喜多隊と福島隊の戦いを描いている。宇喜多隊は援軍を得られず孤軍奮闘の戦いであった。下方には東軍の蜂須賀至鎮、遠藤慶隆、小出秀家、亀井茲矩らの隊がいる。

## 三扇

場面下半分を占める五七の桐の旗を差した部隊は福島正則隊。中央左端の馬上の人物が正則。向かっている先は西軍の宇喜多秀家隊である。その上では敵中突破を図る西軍島津隊と東軍本多忠勝隊が戦っている。糸車の陣幕が張られた部隊は西軍の小西行長隊。

## 二扇

中央斜めに描かれた赤い甲冑の軍団が徳川四天王の一人井伊直政の部隊。場面上方では青地に藤巴の旗を差した黒田隊に攻められて石田隊が敗走している。その下も西軍に攻め込む黒田隊。馬上の人物が黒田長政。場面中央では東軍に討ち取られた首の検分が行われている。

## 一扇

三ッ葉葵の陣幕が張られた所が家康の本陣。その中には南光坊天海の名がみえる。赤地に「伍」の旗を差した使番が本陣に戦況を報告している。その右が戸田氏鉄。上方の白地に九曜の旗を差した一隊は細川忠興の隊。馬上の人物が忠興。